は　じ　め　に

この研究報告書は、2006(平成 18)年度からはじめた都市計画プロジェクト「次世代に向けた集客力のある都市づくりに関する研究」の第２年度版である。

人口減少が必然となった本市では、都市活力の維持、増進のためには一層の都市集客力の向上と都心の賑わいづくりが不可欠であり、このことは次世代に向けた都市政策の大きな柱となっている。また、その集客力のカバレッジは近隣地域からだけでなく、全国さらに海外からの多くのビジターで賑わう交流都市としての姿が望まれている。集客と交流力の持続的な蓄積が将来にわたる大きな都市戦略といえる。

さて、このような研究の背景から昨年度は、都市の賑わいと集客力を創出する構成要素と条件や全国 51 都市の賑わいエリアの賑わい創出に寄与する要素の析出を行い、一方では韓国諸都市の集客都市づくり施策の紹介、また東南アジアとアメリカ東海岸諸都市における先進的な集客型まちづくりの分析を行ったところである。

そこで本年度のプロジェクトは、前年度の成果をふまえ、より具体的な都市戦略の構築に寄与するための研究という共通認識のもと、まず第１章では、都市の賑わいを創出する代表的な都市空間である街路に着目し、中国・天津市のトランジットモールを対象として、歩行者交通を支える街路環境やその施設配置の役割を明らかにした。さらに香港の屋台街を対象として、街路の空間特性や店舗の業種、屋台のタイプなどの多角的な分析から、賑わい創出に寄与する条件を明らかにした。次に、第２章では、現在わが国の都市計画の最重要課題である地方都市の中心市街地活性化方策にターゲットを当て、今後の中心市街地活性化に関する基本的な課題認識を整理し、地域活性化の拠点として再生するための取り組みについて若干の提言を行った。さらに、第３章では、北九州市内の観光資源に着目しその現状把握を行った上で、生活者の視点から類型化したエリア分析とあわせて、観光資源の分布状況を把握し、その有効活用策を検討した。第２章、第３章ともいずれも、将来の集客型まちづくりを展開していく上での課題と戦略につき、研究者それぞれが着目した視点を通じて論考している。最後に、第４章では、集客力向上のパワーである若年層の市民力に着目し､彼らのまちづくりへの参加促進要件の考察という内容で構成されている。

なお、本報告書の内容について、とくに施策方途への言及等については筆者個人の責任において取りまとめたものであり、当研究所の見解を代表するものではないことを一言申し添えたい。最後になるが、この研究会に参加されたメンバーやご協力いただいた関係各機関には改めて感謝申し上げる次第である。

北九州市立大学都市政策研究所
都市計画プロジェクト実行委員会
実行委員（同研究所准教授）神山和久